

令和4年度を振り返って

院長 小原 眞

年度末にあたり、今年度の出来事を振り返ってみたいと思います。

令和4年3月に新型コロナウイルス感染症の第6波がようやく収まったのも束の間、すぐに第7波・第8波が押し寄せてきました。この間、通常診療も行いながら、町内の介護施設でのクラスターへの対応等に追われ、本年度も「コロナ対策」に追われた1年でした。これに伴い、院内での検査件数も増加し、抗原検査・PCR検査の総数は1,424件を数えました（令和3年は258件）。特筆すべきは、検査の陽性率が0.8%（令和3年）から24%（令和4年）に上昇したことです。当然、西和賀町内での療養を要する患者数も増えていったため、当院での入院治療の受け入れを開始しました。

院内2室に陰圧装置を設置し、各関係機関からのご指導のもと、8月に第1例目の患者を受け入れ、12月までに合計16人の入院患者を受け入れました。中部医療圏全体を見た場合、総数としては多くありませんでしたが、広い圏域内で県立中部病院・北上済生会病院・県立遠野病院に次ぐ4番目の受け入れ病院として、地域のニーズに応えることができたと考えています。

令和4年度の新メンバーとして、内科医長の熊谷和也先生、歯科医長の角田直子先生をお迎えし、パワーアップしてのスタートを切りました。熊谷先生は心臓血管外科の経験を積んでおり、内科一般の診療の他、循環器疾患の診療にも力を注いでいただき、大きく貢献していただきました。歯科の角田先生は口腔外科が専門であり、当院の歯科診療の充実を図っています。さらに医科歯科連携を強化しつつ、医科の入院患者に対する口腔管理・NST活動にも熱心に取り組んでいただきました。そのひとつの現れとして、当院で初めてとなる嚥下内視鏡（VE）を導入しております。これにより嚥下機能評価を行うことで、摂食機能療法の充実・誤嚥性肺炎の予防などの点で大きく寄与しています。今後更なる充実を期待するところです。



当院での嚥下内視鏡の様子

新年度を迎えるにあたり、更なる進歩を目指します。今後も地域に根ざした病院としての役割を果たすべく、スタッフ一同努力していく所存です。引き続き関係各所のたくさんのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

